

〔論説〕

## 対人援助専門職にとってのカウンセリング研修の意義

安田 勉<sup>1)</sup>

### Counseling training for service staff in the human services — the meaning of counseling training —

Tsutomu Yasuda<sup>1)</sup>

#### Abstract

The objective of this article is to discuss the meaning of counseling training for professionals and to introduce the aims, contents and process of counseling training.

Request for counseling training has increased from service staff such as social worker and nurses recently.

Therefore I examined the counseling training that I have been giving for several years and decided to discuss what kind of meaning it has for professionals like social workers and nurses.

In addition, I considered the contents and the process of real counseling training.

Service staff such as social workers and nurses, thought that they could learn a useful skills such as communication skills through counseling training".

During counseling training, I intended to get them to learn useful skills tied to the idea of being useful to clients and to the ethics which are characteristic of their professions. I used a lot of role plays so that participants could learn from the experience.

Concrete learning includes definition of counseling, observation skills, self-awareness, finding resources, paying attention to behavior, basic listening skills, interviewing skills, methods of psychological approach and so on.

(J.Aomori Univ.Health Welf.6(1): 63-70, 2004)

Key words : counseling training, service staff, professions,

#### 1. はじめに

現在、対人援助領域では、様々な職種の専門職が働いており、専門性向上のために様々な研修が行われている。筆者は数年にわたって社会福祉領域や看護領域などの対人援助領域で働く専門職に対してカウンセリング研修を行っているが、研修要請は多くなっているように感じる。社会福祉領域や看護領域などの対人援助領域で働く専門職はカウンセリング研修に何を求めているのであろうか。本論では、社会福祉領域や看護領域などの対人援助領域で働く専門職が自らの専門性向上のために学ぶ研修全体の中で、カウンセリング研修はどのように位置づけられ、カウンセリング研修に何を求めているのか、また、対人援助専門職の要望に沿うカウンセリング研修はどう

あったらよいのかなど、カウンセリング研修の意義を検討するとともにその実際プログラムを紹介する。

#### 2. 対人援助領域における研修形態とカウンセリング研修の位置づけ

対人援助領域における専門性の向上にとって、研修は不可欠のものである。研修は多様な形態をとって行われるが、一つの分類として、職場外研修、職場内研修、派遣研修、自己研修という分類が考えられる。これ等の研修で学んだことが専門職の個人内・集団内で有機的に結びつき、最終的に援助ニーズを持つ人々に反映されることが重要である。

それぞれの研修が専門職にとって新たな知識や技術の

1) 青森県立保健大学

Faculty of Health Sciences, Aomori University of Health and Welfare

獲得につながり、さらには専門職の動機づけを生み、他の研修に結びつくことが期待される。今まで職場外研修や職場内研修の一つとして行ってきたカウンセリング研修は、その研修そのものから学びが得られると同時に他の研修要求ができるような内容や方法であることが求められる。

さて、今まで筆者が行ってきたカウンセリング研修は職場外研修及び職場内研修である。社会福祉領域では、青森県社会福祉研修所（以下、社会福祉研修所とする）が主催した高齢者施設職員対象、児童・障害児者施設・行政機関職員対象、および全領域を対象としたアドバンスコースの3回の研修（職場外研修）、児童相談所主催による職員を対象とした研修（職場内研修）、市の高齢福祉課主催のケアマネージャーを対象とした研修（職場外研修）、県社会教育センター主催の保育士を対象とした研修（職場外研修）である。看護領域では、青森県看護協会主催による訪問看護師対象とした研修（職場外研修）、および病院看護部局主催による院内研修（職場内研修）などである。

次に、職場外研修および職場内研修としてカウンセリング研修はどのように位置づけられるのであろうか。まず、職場外研修としてのカウンセリング研修の位置づけについて社会福祉研修所の研修を例に検討する。まず、社会福祉研修所における研修の方針とカウンセリング研修の位置づけについて検討しよう。研修所では、平成15年度の基本方針として、前年の施設運営者や研修受講者へのアンケートに基づき、「人間性豊かで、専門性と実践力を備えた社会福祉従事者の育成」に重点をおいた社会福祉研修の実施および社会福祉に関する最新情報等の提供により、社会福祉従事者の資質向上に資するものとする<sup>(1)</sup>と述べ、「豊かな人間性の涵養」、「専門性と実践力を備えた社会福祉事業従事者の養成等」、「職場内研修担当職員の養成」の三点の研修目的を挙げている。

また、平成15年度の特徴としては、第一に、研修体系の整備を行い、これまでの「基礎講座」、「専門講座」、および「各中堅職員研修」を「階層別研修」、「課題別研修」「職種別研修」に改組し、緊急性、専門性の高い研修ニーズに対応できる研修体系とすること、第二に、実技、実習等を取り入れた研修を実施すること、第三に、重点研修テーマを設けて行うこと、第四に、福祉に関する最新情報等をホームページによりすみやかに提供することの四点である。なお、具体的な研修体系は表1のようになっている。

また、具体的なカウンセリング研修案内では、その目的が「社会福祉施設や社会福祉行政機関における対象者のニーズは、複雑多様化しており、心理学に関する基礎的な知識を踏まえた対応が必要とされることから、援助

技術の実践力を高めるためカウンセリングの知識と技術の習得を図ることを目的とします」（基礎講座研修案内）や「心理学に関する基礎的な援助技術を学んだ受講経験者を対象に、カウンセリングの事例と演習をとおり、さらに援助技術の実践力を高めることを目的とします」（アドバンスコース研修案内）となっている。

以上のように、社会福祉研修所の研修方針、目的、研修体系や研修案内から検討して、「課題別研修」に位置づけられるカウンセリング研修は、実技・実践などを取り入れて技能・技術の専門性の向上を目指す研修の一つとなっている。「援助技術の実践力を高める」とあるように実践性が特に強調されている。

次に、職場内研修としてのカウンセリング研修はどのように位置づけられるか。青森県立中央病院での研修要項は、「看護場面で患者や家族の訴えや行動から微妙な心理を汲み取ることができる能力を養う」ことを目的に挙げ具体的には「①患者や家族の訴えを正確に聞き入れ、判断・理解する方法を知る。②患者や家族への対話のポイントを知る」を挙げている。また十和田市立中央病院での研修依頼では「①患者の心をより深く理解する。②コミュニケーション技術を修得し看護実践に生かす」となっており、やはり患者への適切な関わり、すなわちコミュニケーション技術の実践力の向上をカウンセリング研修に期待している。

### 3. 対人援助領域における専門性と実践力について

上述のように、カウンセリング研修は、職場外研修および職場内研修の両者において専門職の援助実践性の向上を主な目的としている。そこで、専門職の援助実践性の向上が期待されるカウンセリング研修の実際について述べる前に、専門職と専門職の実践性について検討する。

専門性とは何か。石村はプロフェッション（専門職）について、その定義を「プロフェッションとは、学識（科学または高度の知識）に裏づけられ、それ自身一定の基礎理論を持った特殊な技能を、特殊な教育または訓練によって習得し、それに基づいて、不特定多数の市民の中から任意に呈示された個々の依頼者の具体的な要求に応じて、具体的奉仕活動を行い、よって社会全体の利益のために尽くす職業である」<sup>(2)</sup>と述べ、技術的側面、報償＝経済的側面、社会的側面の三点から考察している。

まず、技術的側面の問題としては、第一に、専門職の活動が私益追求ではなく、公益奉仕を目的とする活動であること、第二に、科学や高度の学識に裏づけられた技術を行使する専門的・特殊技能を備えていること、第三に、特殊技能の使用自体にそれを支える科学的一般理論の存在が必要であることの三点。次に、報償＝経済的側面の問題としては、第一にプロフェッションの活動は、社

表一 青森県社会福祉研修所の研修体系

区分	研 修 名	受講対象者
階層別研修	社会福祉行政新任職員研修	県市町村新任職員
	社会福祉行政トップセミナー	市町村長・議長・社協会長
	保育所新任保育士研修	新任保育士
	保育所主任保育士研修	主任保育士
	保育所所長研修	保育所長
	児童・障害者等福祉施設新任職員研修	新任職員
	児童・障害者等福祉施設主任職員研修	主任処遇職員
	老人福祉施設新任職員研修	新任職員
	老人福祉施設主任職員研修	主任処遇職員
	社会福祉施設長研修	施設長（保育所を除く）
	社会福祉法人理事・監事研修	理事及び監事
課題別研修	地域福祉セミナー	行政・社協・処遇職員
	保育支援セミナーⅠ	保育士
	保育支援セミナーⅡ	
	保育支援セミナーⅢ	
	児童・障害児者等支援セミナーⅠ	処遇職員
	児童・障害児者等支援セミナーⅡ	
	児童・障害児者等支援セミナーⅢ	
	高齢者支援セミナーⅠ	
	高齢者支援セミナーⅡ	
	高齢者支援セミナーⅢ	
	療法セミナーⅠ	行政・処遇職員
	療法セミナーⅡ	
	カウンセリング研修（行政・児童・身障・知障）	処遇職員
	カウンセリング研修（老人）	
	カウンセリング研修（アドバンスコース）	
	社会福祉援助技術研修（行政・児童・身障・知障）	行政・処遇職員
社会福祉援助技術研修（行政・老人）		
社会福祉施設職場研修担当職員研修Ⅰ	職場研修担当職員	
社会福祉施設職場研修担当職員研修Ⅱ		
職種別研修	生活保護従事職員研修	査察指導員・現業職員
	福祉事務所査察指導員研修（15年は休止）	査察指導員
	地域ケア会議職員研修（15年度は休止）	地域ケア会議職員
	児童・家庭福祉担当職員研修	行政・処遇職員
	保育所・社会福祉施設経理職員研修Ⅰ	経理担当職員
	保育所・社会福祉施設経理職員研修Ⅱ	
	児童館・放課後児童健全育成事業関係職員研修	児童厚生員・児童指導員
	社会福祉施設看護職員研修	看護職員
	社会福祉施設休職関係職員研修（栄養士）	栄養士
	社会福祉施設休職関係職員研修（調理師）	調理員
資格付与	社会福祉主事資格認定講習会	要資格者
研究発表会	健康福祉職員研究発表会	保健・医療・福祉従事者

（「平成15年度社会福祉研修概要」に記載されている研修体系図に基づき作成した）

会の全ての人々に解放され、誰でもがその提供するサービスを楽しむことができること、第二に、その具体的活動は対一の関係を通じて個別に行われること、第三に、営利を追求するものであってはならず、中立的であることの三点。さらに、社会的側面としては、第一に、プロフェッションは社会的地位を得るために一つの団体として活動すること、第二に、プロフェッションの団体

は、専門技能の教育、訓練、維持、向上のために基本的な責任を負うこと、第三に、団体は専門職としての社会的意義を確保し、向上させるため、所属メンバーに対して倫理的自己規制を求めることの三点を述べている。

そしてまた、石村はプロフェッションの特徴を要約して、「先に職業一般を把握するために示した、①技術、②職場、③社会、の3つのことばを思い出して欲しいと

思う。この3つの次元で、プロフェッションの特徴を簡単に要約してみるとつぎのようになろう。まず、①の点で、プロフェッションの技術は、科学に基礎付けられた奉仕的性質のものであること、②の点で、プロフェッションの職場は、依頼者に対する個別サービスであり、非営利的性質のものであること、③の点で、プロフェッションは高度の倫理性を強調する職業であること、がいえるであろう。かくて、科学、利他主義、倫理—science, altruism, ethics—この3つをプロフェッションの特色を示す言葉としてあげることができるであろう。」<sup>(3)</sup>と述べている。

上述のことから、専門職の実践性を検討するとき、3つの側面をもつ専門職の実践性は技術的側面における専門的・特殊技能だけに限られるものではないことが理解できる。その他に報償＝経済的側面における中立性などの実践、社会的側面としての倫理性などの実践等さまざまな実践性が求められる。それぞれの専門職の技術的側面としての専門的・特殊技能は報償＝経済的側面や社会的側面と結びついてその独自性を示すようになる。従って、それぞれの専門職がもつ独自の専門的・特殊技能の向上、すなわち実践性を高めるための研修においては、報償＝経済的側面や社会的側面と意識的に結びつけながら行う必要がある。そうしないで、利己主義、営利主義、商業主義に侵害を受け、奉仕的性質を持つ技術の行使である専門的・特殊技能が一人歩きする時、利他主義や倫理等の専門職の特徴が蔑ろにされ、専門職としての役割を果たすことが出来ず、ニーズを持つ対象者に対する人権侵害が生れること考えられる。利他主義や倫理を蔑ろにする専門職の活動は、人権侵害の活動となり、技術は人権侵害の道具となってしまう。石村は「現代のプロフェッションはさまざまな面で、さまざまな型体で、利己主義、営利主義、商業主義の侵入がめざましいことを見逃してはならないのである。極端にいえば、現代のプロフェッションの問題は、この営利主義の侵入、それによる利他主義の変質あるいは崩壊、という問題の検討をぬきにしては理解できないということは、いくら強調してもし過ぎることはないと思われる。」<sup>(4)</sup>と述べ、利他主義の変質や崩壊に対して常に注意すること喚起している。社会福祉領域をはじめとした対人援助領域において、営利主義、商業主義が当時以上に侵入していると考えられる現在の専門職においては、ことさら、このことを強調しておくことは重要であろう。

従って、専門的・特殊技能の向上を目指した研修は、技術の行使という専門的・特殊技能の向上のみに専念した研修では、技術を人権侵害の道具にしかねないため、誰の利益のための専門性なのかという目的や利他主義、倫理と一体となった研修であることが求められる。

そこで、対人援助領域においては、それぞれの専門職

がもつ独自の専門的・特殊技能は利用者、入所者や患者などニーズを持つ人々への援助的対人関係を通して発揮される。従って、ニーズを持つ人々との関係のとり方によってはその技能が必ずしもうまく発揮されるとは限らない。

そこで、社会福祉領域や看護領域の専門職は、クライアントとの対人関係と言語的交流を基本にした心理的援助を行うカウンセリングの知識や技術などが自らの活動に大いに役立つと考え、それらの学習をカウンセリング研修に期待した。社会福祉領域や看護領域の専門職にとって、カウンセリング研修は自らの専門的・特殊技能の向上、すなわち実践力の向上に結びつくカウンセリングの知識やコミュニケーション技術などの対人援助技術を学べるという意義を持っていると考えられている。このような意義に沿った研修はどうあったらよいのだろうか。今まで筆者が講師として実践してきたカウンセリング研修のプログラムを紹介する。

#### 4. カウンセリング研修のプログラム

##### (1) 研修目的

ここで紹介するカウンセリング研修はカウンセリングを専門職とするものを対象としたものではなく、対人援助においてカウンセラーと連携を組む、社会福祉職や看護職などの専門職に対してのカウンセリング研修である。専門職の活動内容はそれぞれ異なるが、人との関わりでその活動が行われることは共通する。そこで、同じ対人援助領域で仕事をする専門職として共通する部分と考えられる事柄についてカウンセリングの知識と技術とその行使である技能を学んでもらうことを研修の目的と考えた。具体的には、カウンセリング活動で使われる知識、技術、技能の中で他の専門職と共通すると考えられる面接技法を中心にした内容と方法を考え、受講者が、サービスの対象者すなわち利用者や患者への利他主義に基づいて、その知識や技術が使えるよう意図した。

##### (2) 研修方法（内容、プロセス、進め方）

カウンセリング研修の具体的な内容と方法は、各専門職の活動形態を考え、決定した。すなわち、入所施設や病院での専門職の活動は日常生活での関わりを通してその専門性が発揮される。そこで、入所施設や入院病棟での日々のソーシャルワークやケアワーク、看護活動でも利用できる生活場面面接 (life space interview)<sup>(註)</sup>を研修の重要な柱とし、カウンセリングにおけるものの見方や考え方、質問法など、カウンセラーが面接室を利用しておこなう個別面接

で使われる知識や技術の理解、技能の習得を目標とし、方法としてはロールプレイ（役割演技）を多用した。その具体的内容は表一2の通りである。

研修プロセスは研修番号の順番に詳しく述べると、職場外研修—基礎コースおよび職場内研修が表一3のようになる。それぞれの研修時間は参加者の理解の程度、疲れ具合や要望を入れながら適宜変えた。従って、毎回まったく同じということではない。参加者には資料として書き込みのできる教材が配布

され、資料に基づいて研修が進められる。

職場外研修および職場内研修共に内容は同じであるが、職場内研修は時間が約半分であり、ロールプレイの内容や時間を少なくして行っている。

研修時間は職場外研修の場合、基本的に2日間を使い8時間から10時間、職場内研修は1日または2日を使い3時間～4時間（2日の場合は1回が1時間30分から2時間）である。

表一2 カウンセリング研修の学習内容

研修日	学習番号	学 習 内 容	ロールプレイの有無
1日目	1	カウンセリングってどんなこと？	
	2	クライアントを良く知るには？	有
	3	自分を知るには？	有
	4	相手に合わせること（非言語的関わり）	有
2日目	5	相手に合わせること（言語的関わり）質問法	有
	6	どこに焦点を当てて心理的ケアを進めるか	
	7	心理的ケアのポイント	有
	8	グループワーク（事例検討を含む）・質疑応答	

## まとめ

対人援助を行う領域では、様々な職種の専門職が働いており、専門性向上のために様々な研修が行われている。近年、社会福祉領域や看護領域など対人援助領域で働く専門職からのカウンセリング研修の要請が多くなってきている。そこで、筆者が数年にわたって実施してきたカウンセリング研修を振り返って、専門性向上のための研修全体の中でのカウンセリング研修の位置づけと意義について検討し、またその実際のプログラムについて紹介した。

職場外研修である社会福祉研修所主催のカウンセリング研修は、実技・実践などを取り入れて技能・技術の専門性の向上を目指す研修の一つとなっており、「援助技術の実践力を高める」とあるように実践性が特に強調されている。また、職場内研修としてのカウンセリング研修は「看護場面で患者や家族の訴えや行動から微妙な心理を汲み取ることができる能力を養う」ことや「①患者の心をより深く理解する。②コミュニケーション技術を修得し看護実践に生かす」ことで、患者への適切な関わり、すなわちコミュニケーション技術の実践力の向上をカウンセリング研修に期待している。すなわち、カウンセリング研修は、関わりやコミュニケーション技術などの対人援助技術を学べる意義を持っていると考えられている。

カウンセリング研修に対して関わりやコミュニケーションの実践力向上を目指し、その技術的側面に期待し

ているが、技術の行使という専門技能の向上を意図した研修は、専門職の特徴である目的性や利他主義、倫理と一体となった研修であることが求められる。そうしないと、現代の利己主義、営利主義、商業主義に侵害を受け、専門的技術・技能が一人歩きしてしまい、入所者や患者などへの人権侵害の道具になりかねないからである。

筆者が実践したカウンセリング研修は、社会福祉職や看護職などの専門職に対してのカウンセリング研修である。その内容は、入所者や患者との関わりやコミュニケーションに限らず、カウンセリング活動で使われる知識、技術、技能の中で対人援助領域において仕事をする専門職に役立つと考えられる内容とした。また、受講者が、サービスの対象者すなわち利用者や患者への利他主義や倫理を考えながらその知識や技術が使えるよう意図した。さらに、受講者に体験的に学んでもらえるようにロールプレイを多く用いた。具体的な学習内容は、カウンセリングの定義、観察法、自己覚知、関わり技法、質問法、面接の進め方、心理的ケアのポイント、リソースの発見などである。

（注1）Fritz Redlは児童の治療施設での取り組みから生活場面面接（life space interview）の重要性を述べた。彼は日常生活における具体的な事件やその場面での即座の関わりが子どもたちの現実認識の歪みを矯正すること、自尊心を高めることや感情をコントロールすることなどに結び

表-3 研修プロセス

研修日	学習番号	学習内容	研修時間の目安	
		具体的説明	職場外研修	職場内研修
1日目	1	カウンセリングってどんなこと？	30 (分)	20 (分)
		カウンセリングの定義をソーシャルワーク、サイコセラピーと比較して説明する		
	2	クライアントを良く知るには？	60	30
		その人を知る方法にはどのような方法があるかを参加者と共に考えー5つ、その一つである観察法についてロールプレイを行、観察の重要性を理解する		
	3	自分を知るには？	60	20
		自己覚知の方法の一つとして、エゴグラムを行い、その分析の基に自分の動き方や考え方を確認する		
	4	相手に合わせること（非言語的関わり）	60	20
		非言語的なコミュニケーション行動が相手に影響することを説明し、ロールプレイを行いその行動が相手のどのような影響を及ぼすかを理解する		
2日目		前日の復習	30	10
		前日行われた研修内容について再確認するとともに、観察法のロールプレイを行う。また前日の観察との比較で、観察法は訓練すると楽に行えることを確認する		
	5	相手に合わせること（言語的関わり） 質問法	60	20
		質問することの意味とその方法について理解する。ロールプレイを通して体験する		
	6	どこに焦点を当てて心理的ケアを進めるか	60	20
		過去や現在の出来事そして未来のどこに焦点を当てるかによって面接の進め方が違うことを説明し、クライアントの解決意欲や実行力を生みやすい解決志向的アプローチを紹介する		
	7	心理的ケアのポイント	40	10
		入所施設や病院などでの心理的ケアを行うにあたってのポイントを紹介し、その中で特に入所者、患者そして関わる専門職のリソース（資源）を見つけることの重要性を説明する。また治療的環境作りの重要性について説明する		
8	グループワーク（事例検討を含む）・質疑応答	80	40	
	グループごとに事例について検討し、問題解決のためのアプローチを紹介し、討論し合う			

※ 1 研修時間は職場外研修が10時間の場合、職場内研修が4時間の場合を基に設定している。

※ 2 グループワークは、職場内研修では、研修実施施設に準備してもらう。

つくこと発見した。そこで、生活上の出来事を臨床的に利用することやその場面での即座の情緒的な応急処置に焦点を絞った関わり方がある種の面接と考え、生活場面面接と呼んだ。入所施設や病院等の日常生活の中で入所者や患者と関わろうとする専門職にとって有効なアプローチと考えられる。窪田暁子「施設治療」(『臨床

心理学講座3 心理療法』、安田勉「治療的環境と生活場面面接」(『心理治療と治療教育』)の中で詳しく述べられている。

(受理日：平成16年12月24日)

引用文献

(1)「平成15年度 社会福祉研修概要」青森県社会福

社研修所、p 3、2003

- (2) 石村善助「現代のプロフェッショナル」至誠堂、  
p 25-26、1969
- (3) 石村善助、前掲書、p 38
- (4) 石村善助、前掲書、p 34

#### 参考文献

- (1) 岡村重夫「社会福祉研修の方向と課題」『社会福祉研究』第34号、鉄道弘済会、1984
- (2) 諏訪茂樹「援助者のためのコミュニケーション」建帛社、1995
- (3) 小島通代・吉本武史編著「ナースだからできる5分間カウンセリング」医学書院、2000
- (4) アレン・E・アイビィ著、福原真知子他訳編「マイクロカウンセリング」川島書店、1985
- (5) 窪田暁子「施設治療」水島恵一、村瀬孝雄編集『臨床心理学講座3 心理療法』誠信書房、1976
- (6) 安田勉「治療的環境の形成と生活場面面接」『心理治療と治療教育』第7号、1996